町屋のなかの小さな町屋【佳作】

設計者
木村敏浩・大平晃司

◎設計主旨

津島における魅力ある伝統的な街並みの形態的な共通性として、平入り、木造、門や塀などの要素がある。個々の町屋がこれら一定の構造を有し、それらの集積により歴史的景観を形成している。この背景には、周辺環境、湾曲した街路形態、地割、建物の骨組や意匠等、有形無形を問わず知識の集積と一貫した地域の解法があり、この解法が大小のスケールにおいて面的に展開され「重層的な建築群」へと昇華されているように感じた。それは地域に内在する普遍性とも言えるだろう。

計画は、この「重層的な建築群」を元とし、街路から小路を引込み、町屋内に小さな町屋を反復する集合住宅の形式とした。 設計主旨は、「細くて明確なアクセス経路、想定世帯の多様性確保、ＲＣ造と木造による混構造、普遍性と可変性の確保、段階的に開放されたシェアルーム、空間的奥行きによるコミュニティとプライバシーの両立」などから成る。これらの設計主旨には、相反する概念も多い。しかし、多様な人が集まって住むことを前提とすれば実現できる。多様な要求に対しておおらかであれば、住宅でありながら、人々が実際に足を運び使う場として、生活の一瞬、一時、一部となり日常風景に寄与できると考えた。あるいは、形態的な景観保存や修復による継続性の担保よりも、重層性といった背景を再発見し遺産として共有することで、津島の伝統文化を継承する持続可能性への一役を担えれば良いと考えた。

◎講評

〇難波和彦審査委員長

本町筋と裏通の２面道路に面する細長い変形敷地に、路地のような通り抜け道を通し、それに沿って４戸の住宅を並べた長屋型の集合住宅です。

住宅の間に中庭や共有空間を設け、光や風を取り込んでいる。通常は 1 戸の町家住宅をコンパクトで高密度な集合住宅にコンバージョンしようとする意欲的な提案であり、新しい街並のシークエンス形成が目論まれている点が評価されました。審査委員長は潜在的な可能性を高く評価しましたが、細部に機能的問題が散見される点で最後まで勝ち抜けませんでした。

〇朝岡市郎審査委員

敷地を特定し、奥深い敷地に小路を引き込むことによる町家群を創造する集合住宅の提案です。津島型町屋のなりたちを詳細に調査し、将来についても検証されている。駐車場の確保が無いのは残念ですが素晴らしい提案であると思います。

〇浅野聡審査委員

この提案は、伝統的な木造建築による町家群の中に、あえて RC 造と木造の混構造による長屋型建築を提案したことが特徴的です。

以前から各地で町家群の中に異質な建築を持ち込む提案は行われており、一昔前はそれを受け止める社会的な余裕がありましたが、現在、津島の町家群はかなり減少しており、それらを保全再生するためにはまったなしの危機的状況です。本町筋において、あえて異質な RC 造等による長屋型建築を受け入れるためには相当の説得力が求められますが、そこまでには至らなかったのが残念でした。

〇生田京子審査委員

奥に細長い敷地を使って、４世帯が集って住まう新たなデザインが提案されている。通り土間の形式を継承するかのごとく、細長いパスにそって各住戸や共用空間が展開されており、複雑ながらも魅力的な空間ができている。

〇清水裕之審査委員

とにかく不思議な雰囲気を持った提案であった。あえて違和感のある現代的な空間性を町屋に持ち込んでいること、ちょっと不自由そうな共同生活をあえて提案していること、それぞれの空間に、横のパスという極めて狭小な通り抜けからアクセスさせていることなど、町屋に異化作用を持ち込んで変容させようとする強い意志を感じた。

審査員として、これをどう評価するか迷うとこであったが、このコンペの趣旨は、提案が革新的であっても、背景に現実的な調和を求めていると理解して、異化作用の強い案は選ばなかった。

〇日比一昭審査委員

町屋のなかの小さな町屋ということで、通り抜け可能な「パス」を設け、機能分離などを明確にしながら、つながる空間はとても興味深く、デザイン的にも、優れていると考え、高く評価したい。